

二〇三三年六月三〇日

座すによき風倒木や杜涼し
楊梅の散るを踏むまじ散歩道
梅雨夕焼海と空とのけじめなく
雨滴かと思れば犇めくあめんぼう
大淀の水に育ちし青田かな
切株に一息いるる登山道

せいじ
あひる
うつき
満天
はく子
あひる

二〇三三年六月二九日

一閃の雷火に現れし木偶の角
独り寝に夜干の梅の匂ひけり

素秀
むべ

二〇三三年六月二八日

耳澄まし泉の奏づ楽聞かむ
あぢさゐの地に伏すもあり雨激し

むべ
もとこ

二〇三三年六月二七日

岨道の左右に広がる齒朶若葉
少年が行司務める泣き相撲
山頂の風に憩へば汗引きぬ
湯ほてりをさます散歩や夏柳

せいじ
なつき
あひる
素秀

二〇三三年六月二六日

青時雨五彩を競ふ城の木々
凌霄花特等席は二階窓
青葉影白狐を彫りし神の石
訪問の介護士にまず麦茶かな
道の駅曲がり胡瓜を大盛に

うつき
こすもす
なつき
たか子
はく子

二〇三三年六月二五日

泣き相撲行司手に持つ般若面
泉殿木漏れ日湛へ水鏡
女人涼し帯に挟める乗車券
猫の手も借りたしと思ふ梅仕事
梅雨晴間散歩がてらに小買物

なつき
むべ
うつき
千鶴
はく子

二〇三三年六月二四日

黒日傘傾むけ涙隠しけり
沢からのよき風通ふ夏木立
潔く庭の紫陽花剪定す

素秀
澄子
明日香

毎日句会みのる選・二〇三三年七月二日